

●◇ 図書室紹介 ◇●

釧路赤十字病院 図書室

佐藤 敦子

皆様には、いつも大変お世話になり、ありがとうございます。今回、「図書室紹介」をさせて頂く事となりました。が、「図書室紹介」と言っても利用者にとって役割を果たしているか?の自問自答の毎日。それに加え、8月に初参加した日赤研修会で得た良い刺激と、そのギャップとの軽いダメージ。このような中ではありますが、現状と将来に向けての展望・野望を簡単に述べさせて頂きたいと思います。

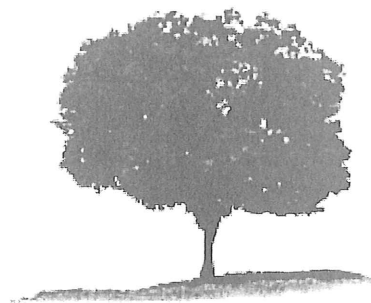
図書室は病院増改築工事の後、旧看護学校(現在は管理棟)の1階に引越しをしました。それまでの図書室は、書籍・雑誌そして製本雑誌を置いているのにすぎず、分類も行っていませんでした。コメディカルの雑誌なども各部署で保管していたので、当然のごとく図書室?へ足を運んでいたのは医師のみでした。

そのような中、引越しと「病院機能評価」という転機が訪れ、図書室を見直すことになりました。スペース的に配架できず平積み!していた製本雑誌を収納するため、念願の移動書架、そして利用者用パソコンを購入してもらいました。また、24時間オープン対応にするため、テンキーのドアを設置しました。その他、管理業務の面では「司書アシスト」を導入し、現在は雑誌の受入処理や文献相互貸借などに使用しています。また、難題であった膨大な量の図書分類も、ようやく終わり、次のステップ課題を思案中です。

今後の目標は、利用者数のアップと電子ジャーナルの利用、そして患者さまへの図書室提供の3つです。一部を除いて図書の一括管理へ移行した効果なのか、利用者数は以前と比べて、日々増加しています。これにともない、文献検索方法などの、利用者への情報発信・提供といった課題が出てきました。また、前述しました電子ジャーナルの問題。こちらは今年の日赤研修会でも取り上げられ、当院にとってまさにタイムリーな話題でした。とりわけ、私にとって電子ジャーナルは一筋縄ではいかない大問題・課題であり奮闘中で、医局秘書業務との兼務という事もあり、なかなか思うように進みません。しかし患者さまへの図書室開放同様、取り組むべき課題だと思いますので日々、努力していこうと思っています。

そして将来、多くの方に利用され愛される図書室として、成長した事をご報告できたらと思います。

今後とも宜しくお願いいたします。



SATO Atsuko

釧路赤十字病院

tosyo@kushiro.jrc.or.jp